

大阪狭山市合唱連盟の まちづくり活動

大阪狭山市合唱連盟
理事長 川竹 了

1. 大阪狭山市合唱連盟活動の現状

(1) 大阪狭山市合唱連盟について

① 設立 平成3年

② 連盟所属団体数 10団体
(平成28年度には11団体になる予定)

所属団体団員数 延約240名
(複数合唱団所属重複した人を修正 約210名程度)

大阪狭山混声合唱団	大阪狭山市民合唱団
大野台一丁目コーラス	おもと会コーラス部
さわやかコーラス	ジョイフル
すずかけコーラス	はとぽっぽ
ヴォーチェ・ステツラ	プリティコーラス

③合唱連盟の目的 (合唱連盟規約第2条)

合唱を通じて会員相互の親睦と技術の向上を図り、
大阪狭山市民の音楽文化の普及・発展に寄与する。

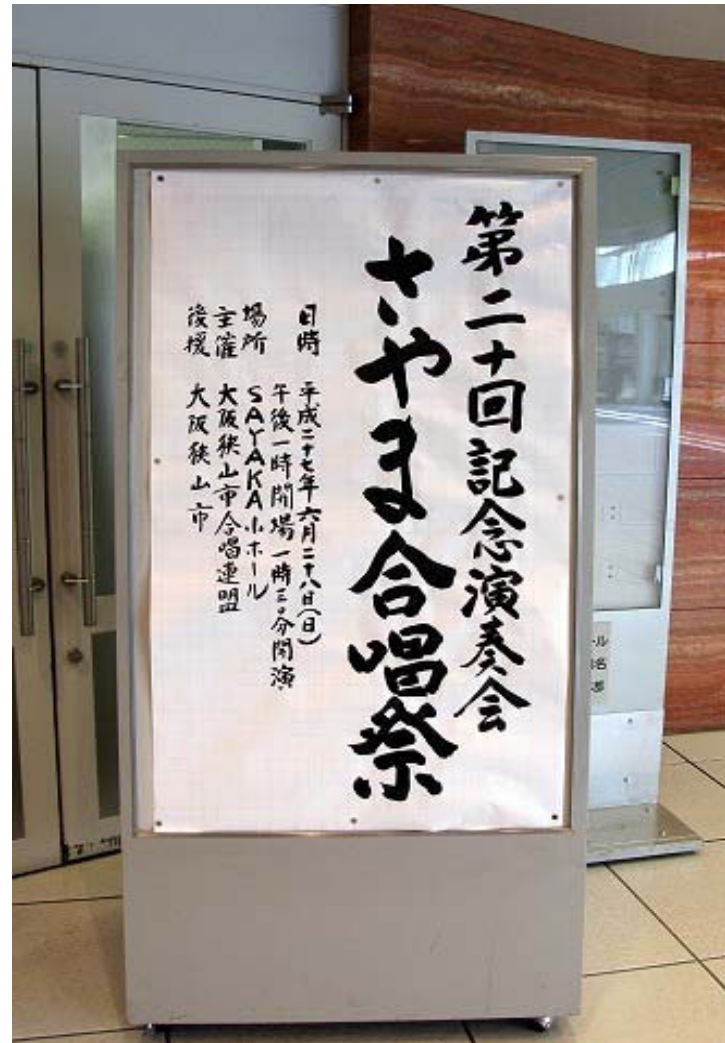
④合唱連盟としての主要な活動

演奏会、市や大阪狭山市文化協会の主催する
事業への取り組みなど

- 毎年さやま合唱祭開催
- 合唱連盟としての活動以外に合唱団独自に
定期演奏会などの演奏活動を実施

(2) さやま合唱祭(年1回開催)

昨年は20回目を記念した合唱祭を開催



③-1

第20回記念さやま合唱祭風景



2016/1/23

③-2

(3-1) 大阪狭山市合唱連盟活動の現状

1) 「まちづくり活動」との関わり

直接「まちづくり活動」に関わっているという意識はあまりない。

○**歌声(コーラス)**は人の情操に訴える性格上、多数が集まって歌うことがコミュニケーションを生み出し**コミュニティ醸成に寄与する。**

①大阪狭山市民の音楽文化の普及発展を通じて、“市民の日常生活の場に潤いと安らぎ”を提供
(地域のふれあい広場・クリスマスコンサートなど)

合唱団独自の地域での活動

すずかけコーラスと南第一小学校5年生との合同演奏



(3-2) 大阪狭山市合唱連盟活動の現状

②大阪狭山市及び大阪狭山市文化協会の主催する 事業などへの取り組み

⇒まちづくりに関連したイベントに出演し、合唱演奏を
通してまちづくりに間接的に協力

大阪狭山混声合唱団

- ・定期演奏会(今年10月)、狭山池祭り
小学校での出前演奏・歌の指導

ヴォーチェ・ステツラ

- ・第39回定期演奏会(今年10月)

(3-3) 大阪狭山市合唱連盟活動の現状

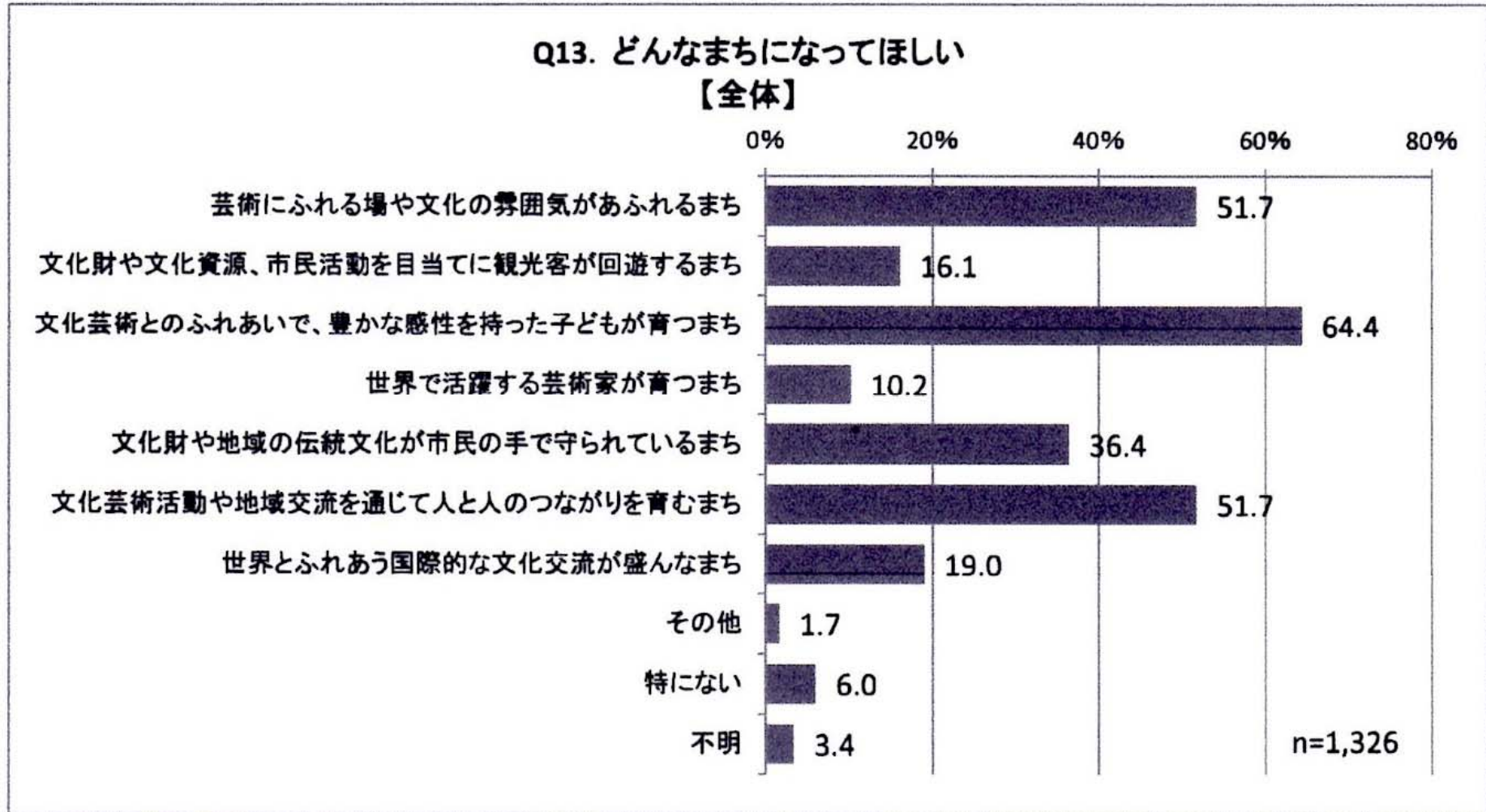
2) 現状の活動の問題点・課題

- ① 団員の高齢化
- ② 高齢化による団員数の減少
- ③ コーラス人口の減少などによる団員の新規加入減や補充不足
- ④ 活動資金不足

⇒ 他の活動団体と共通

2. これからのまちづくり活動(1)

市民アンケートによる市のあるべき姿



(2) 大阪狭山市の文化・芸術活動に対する 考え方(ビジョン)

平成27年3月に市は「豊かな文化芸術を育むビジョン」を
策定

1-1) ビジョンの基本理念

『個性豊かで心を大切にする大阪狭山らしい文化芸術
の創造と多様な主体が協働して取り組む「人づくり・
暮らしづくり」』 ⇒⇒『まちづくり』

- ①人口減少と少子高齢化が現実のものとなった今、文化
芸術によるまちづくりは、まちの発展にとって重要な
要素の一つ

1-2)ビジョンの基本理念

②魅力的で、個性豊かな文化芸術活動の活性化を図る必要がある。

③平成28年(2016年)に狭山池築造1400年という節目の年

- ・文化芸術を通じて、改めて市民のまちへの愛着と誇りを育み、市民が心豊かな生活を創造するまちづくりの絶好の機会である。

2) 大阪狭山市が取り組む市民文化・ 歴史文化の振興

○基本方針

- ①文化・芸術に対する意識の高揚と人材や団体の育成
- ②文化・芸術に触れる機会の充実
- ③文化活動への支援及び芸術活動の促進(文化団体やグループの育成)
- ④活動環境の充実

(3-1) 大阪狭山市と文化芸術活動団体との協働

1) 大阪狭山市の市民活動は「市民協働のまちづくり」として成果を上げている。

2) 一方、市と文化芸術活動団体との協働による「まちづくり」については、ほとんどが活動団体独自の活動に依存。

⇒協働による「まちづくり」とは言い難い。

(3-2) 大阪狭山市と文化芸術活動団体との協働

3) 文化芸術面に対する市(行政)の具体的な関わり方が少ないため「潤い＝豊かさ」の少ない風格が感じられないまちになっているのではないか。

4) 市民の多くが日常の暮らしと文化芸術との融合による「潤い＝豊かさ」を感じるまちを期待

大阪狭山市と文化芸術活動団体との協働による「まちづくり」活動を活性化することが不可欠

(3-3) 大阪狭山市と文化芸術活動団体との協働

5) 現状を改善しこのような協働によるまちづくりを促進するためには、市とこれら団体との協働を支援するコーディネーターが必要

⇒コーディネーターの役割が本日のセミナー主催の大阪狭山市市民活動支援センターに求められていると思う。

(4)ビジョン取り組みに対する市の決意(吉田前市長の 考え)

- 1) “『さやま』の歴史や文化は、心の豊かさをもたら
らし、まちの暮らしやすさや魅力、市民生活の満
足度を高め、まちへの愛着と誇りを育むうえでな
くてはならないもの。
- 2) 文化芸術に親しむことは、市民の創造力を高め、
人と人のふれあいを生み出し、暮らしの基本であ
る身近なコミュニティを形成するきっかけとなる。

3) 今後も、市民の皆様の力を結集し、互いに手を携えて、「行ってみたい・暮らしてみたい・暮らし続けたい」と感じられる魅力あふれるまち大阪狭山をめざし、伝統やまちの特性を生かしながら、文化芸術の創造に向け、人づくり、まちづくりに取り組む。”

『文化芸術の創造に向け、人づくり、まちづくりに取り組む』との市の決意を私たちは期待したい。

(5) 大阪狭山市合唱連盟と合唱団が 目指すまちづくり活動

○合唱音楽の役割

音楽が人の情操(心)に直接触れるものであり、特に合唱音楽は多人数が一緒に歌う歌詞(言葉)とメロディ・リズム・ハーモニーにより年齢や性別にかかわらず人の感性に訴え、連帯感や安らぎを与えることができる。

⇒『人と人のふれあいを生み出し、暮らしの基本である身近なコミュニティづくり』に寄与できる。

○合唱連盟の今後の取り組み

1) ひとづくり、まちづくりへの寄与

文化芸術団体としての「まちづくり」にふさわしい文化・芸術活動であることを常に意識しながら、人づくり、まちづくりに寄与していきたい。

2) 合唱に関する情報発信の強化

合唱祭など演奏会を通して情報発信を強化し、大阪狭山市民の音楽文化の普及・発展に貢献する。

3) 近隣地域合唱連盟との交流

合唱連盟今後の課題への取り組み

○高齢化への対応

- ・高齢化による活動力の低下を食い止めるために合唱愛好家や合唱人口を増やして合唱活動を活性化していく。
- ・小・中学校との連携を深め、子どものころから合唱音楽に親しんでもらう。
⇒大人になった時の合唱人口の増加につながる。

以上